

# 中 日 ニュース

第212号

発行日 令和2年12月8日  
 発行者 社会福祉法人 みのり会 中台育心園 園長／千葉桂資  
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市大字中431-20  
 電話 0299 (69) 2222  
 FAX 0299 (69) 2237  
 ホームページ <https://nakadaiikushinen.jp/>

## 今月の生活目標

- 【単 元】  
 ○火の用心  
 ○整理整頓  
 【目 標】

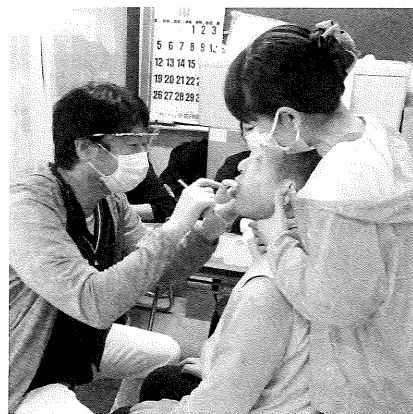


☆火災の怖さを知り、日頃から火気には十分注意を払うことができるようになります。  
 ☆自分の持ち物や公共物を大切に、いつも正しく整理することができるようになります。

## 「感染対策の 一層の強化を目指して」

サービス管理責任者 千葉 博

茨城県全域の障害者福祉施設や高齢者福祉施設に対し、新型コロナウイルス感染症防止対策の一層の強化を図る観点から、感染対策に係るシミュレーションなどを実施するよう県より依頼がありました。当施設内の感染症予防対策委員会において、感染者発生を想定したシミュレーション（施設のゾーニングを含む）や感染防止トレーニングを実施するとともに、感染対策の取組状況について、自己点検を実施し、「チェック表兼報告書」、「委員会組織図等」及び「施設のゾーニング図面」を茨城県障害福祉課へご報告させていただきました。報告させていただいた結果に基づき、先日、県から現地確認及び助言・指導がありました。改善・検討すべき内容として、①利用者スタッフと一緒に食事をしているので別にする、②又、利用者同士でも時間差にする等、密状態で食事をしないよう食事面での工夫、③施設のゾーニングについて、ゾーン内に浴室がないので必要な時に浴室を共有する等の工夫とゾーン内の換気が適切に行えるよう空気の流れをつくる工夫、④ペーパータオルの設



大きな口を開けて（歯科検診）

置場所等の検討、④事務室・スタッフ室に手洗い、手指消毒ポスターを掲示し啓発を図る、といった事柄が挙げられました。

早速、感染症予防対策委員会で改善に向け検討し、①の食事面については、スタッフは利用者とは別に食事を摂る。利用者の食事提供場所を分散化し、密状態の緩和を図る。又、分散化に伴い配膳車を購入。②の浴室共有については、ゾーン内から隔離対象者を屋外に誘導、非感染者との接触を避けて大浴室に移動する（感染者は最後に入浴）、換気についても、必要時にゾーン入口の壁際に扇風機を設置する。③のペーパータオルの設置については、利用者の一部に異食等の行動があることから、居住棟に設置するのは難しいと判断し、個別のハンカチ、又は職員管理のもと、必要に応じて対応する。居住棟以外の手洗い場等にはペーパーホルダーを設置し適宜使用で

きるようにする。④ポスター掲示については、事務室・スタッフ室全ての蛇口付近に掲示しました。今後も改善・検討した内容を施行していくなかで、より良い感染対策を構築していけるよう取り組んでいきたいと思えます。

職員には職員健康管理票を活用し、健康状態を確認すると共に体温計測（1日2回以上）の実施、感染リスクの高い場所を避ける、万が一に備え、行動履歴を記録する等の感染対策を実施するようお願いいたします。と同時に感染対策の基礎的知識や対応方法、防護具等の着脱手順の確認などについての職員研修も全職員に周知できるよう、定期的に実施しているところです。

今後冬に向けて、インフルエンザなどの同時流行の心配やGo Toキャンペーン等の経済対策による更なる感染拡大が懸念されます。コロナ禍での生活は続きますが、マスク着用を基本に、利用者や職員の手洗いの励行、手指消毒の徹底、室内の換気等といった感染予防策を講じながら、外部からのウイルスの侵入を防ぐよう、「持ち込まない」「拡げない」対策の徹底を常日頃より図って行くことが重要だと考えます。

保護者の皆さまにおかれましては、引き続き、ご心配やご不便をおかけ致しますが、何卒、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## 「余暇の時間を通して」

生活支援員 入江衣美

利用者の皆さんは、週末が休日です。土曜日でも生活介護支援の日課になる日があるので、グループのカレンダーに月の予定を書き込んで皆が確認できるようにしています。休みの前日になると、嬉しそうに「明日はお休みだよ」と、確認しに来ることもあります。私も休日の前日の夜には翌日の予定を考えてわくわくしてしまうので、気持ちはとてもよくなります。

休日の朝から積極的にお手伝いをしてくれるYさん。ゆっくり趣味のDVD鑑賞にふけるKさん。おしゃべりに励む女性陣。雑誌やマンガを読んでいる人もいます。アイドル雑誌は男女問わず人気のように、皆で集まって「○○君かっこいいね」「私は▲君が好き」と、盛り上がりつつあることもしばしば。

ある日、自分のアルバムを見ていたJさんが、「ほら、ここ見て！」と一枚の写真を見せてくれました。そこには入職したばかりの頃の私の姿が・・・。「これ、入江さんだよねえ！」と、笑顔のJさん。「若かったねえ！」と、ありがたいお言葉もいただきました。「私が老けたの

と同じだけJさんも年を取っているのですよ?」。Jさんは「私は、もうすっかりおばあちゃんだよ」と、大笑いしていました。コロナ禍で外出などの行事は自粛している現在ですが、昭和の懐かしいテレビ番組のDVDを見ては大笑いしている皆さんと一緒にいます。

余暇の時間は、利用者さんがリラックスできる時間です。そのような空間づくりをすることは利用者さんたちの笑顔となつて、私たち職員も癒しになっていくことに気付きました。また、利用者さんとこれまで過ごした日々を振り返ることができたり、人生の先輩からのアドバイスを聞くことができる、とても大切な時間となつていくのです。



立派なさつま芋がたくさんとれました  
(協和厚生園イモ掘り)

## 農耕班だより

生活支援員 井関秀一

日頃の生活の中で決まり事があるように、農耕班の作業ではいくつかの決まり事があります。そのひとつが、「嫌なことがあっても作業中は気持ちを切り替える」というものです。農耕班は鎌や鍬など、刃物や金物を使用します。それらを取り扱うときに、気持ちのコントロールができていないと怪我をしてしまうことがあるからです。この決まりは、考え方を変わると、農耕活動は利用者さんたちにとってネガティブな気持ちを切り替えられる良い機会になり得ているということです。

新型コロナウイルスの影響で希望する外出ができなかったり、地域の催し物が中止になったりと、毎年行なわれていた行事に参加できない状況ではあります。ですが、その分、農作物を栽培して収穫を行い達成感や満足感を感じ、皆と協力して目標を達成する喜びを感じてもらえるよう支援できればと思っています。

## ふれあい班だより

生活支援員 豊田美聡

ふれあい班では、活動の中で環境整備や創作的活動を行っています。

環境整備は日々の清掃では行わない箇所の掃除や園舎周りの除草などを行います。除草は環境維持に重要であり、同時に季節を感じることでできる活動です。季節の野草が花を咲かせていると花瓶に生けて飾ったり、屋外の空気に触れることでリフレッシュできる時間でもあります。

創作的活動は室内での活動です。生活環境を飾るモビール、こよりを使った絵画づくりや、パズル、雑紙破り、絵合わせなど、個々に合った活動を模索して提供しています。装飾づくりでは月毎の季節に合わせた装飾を作っています。自分の作ったものが飾られているのを見て励みになっている利用者さんも多いです。

どの活動でも合い言葉は『道具を大切にしましょう』です。準備、片付けも皆で協力しながら行い、次回も気持ちよく使えるように取り組んでいます。



# グループだより

## ★ひまわりグループ 『芸術家』

ひまわりグループの芸術家と言え  
ば、ご存じ飯塚さんです。飯塚さん  
は少しでも時間があれば作品作りに  
勤しんでいます。作品は、厚紙など  
をキャンバスに、様々なペンやクレ  
ヨンなどを巧みに使い分け、ダイナ  
ミックな色使いで仕上げます。

私は、今年度の勤労感謝祭の担当  
になりました、飯塚さんに、せつか  
くなので作品を披露してみないかと  
提案してみました。しばらく考えて  
いた飯塚さんですが、何も言わずに  
居室に帰って行ってしまいました。  
乗り気ではないのか、と、残念に思  
っている、手にいっばいの作品を  
持ってきて「これでいい？もつとあ  
るよ」と、まんざらでもない様子で  
した。感謝祭当日は、胸を張って作  
品の紹介をしていた飯塚さん。これ  
からも素敵な作品をいっばい作っ  
てくださいね！  
(林)

## ★すみれグループ 『矢代さんノート』

矢代さんは、毎日夜勤の職員と交  
換日記をしています。

矢代さんからのメッセージは、紙面  
一面に数字や文字がぎっしりと几帳面

に並んでいます。内容よりも、一生懸  
命きれいに文字を書く練習をしている  
成果を見せてくれているようで、私は  
夜勤のときにこのノートを開くのがと  
ても楽しみです。

夜勤職員は毎日違うので、矢代さ  
んノートは『矢代さんとのぞみ職員』  
という一對複数の構図なのですが、矢  
代さんはむしろそれを望んでいて、「み  
んなに毎日書いてほしい。みんなと仲  
良くしたい」という気持ちなのだそう  
です。夜勤の職員で回し読みされる矢  
代さんノートの存在は、持ち主の思い  
が詰まった素敵なコミュニケーション  
ツールになっています。  
(榊原)

## ★あざみグループ 『夜勤の朝と湖林さん』

穏やかな朝日が差し込み、湖林さ  
んの元気な声で一日が始まります。  
朝の身支度では吟味に吟味を重ねて  
洋服を選ぶ湖林さん。私のチョイス  
はあまりお気に召さない様子です。  
ですが、数回に一度は私の提案を受  
け入れてくれることもあり、そんな  
ときは心の中でガッツポーズです。

その次は、布団を片付けて居室の  
掃除に取りかかります。一緒にや  
ろうと声をかけますが、起きてすぐ  
では掃除の気分にはならないよう  
です。そんなときは、待ちの姿勢で  
す。少しすると一心不乱で片付け  
を始める湖林さん。手伝いをしよ  
うとすると怒られることもありま

す(笑)。  
このような毎日のやりとりが私と  
湖林さんの朝のルーティンで、湖林  
さんとの関わりを深める、大切なひ  
とときとなっています。  
(宮崎)

## ★なでしこグループ 『お手伝いの神様』

ある日、グループの衣類や倉庫の  
整理をしていたときのことでした。  
大量の衣類を前に奮闘していた私の  
元へ、そっと近づいてきた人がいま  
した。小野口さんです。私の様子を見  
ると陽気に挨拶をして、すぐにその  
場を去っていきました。少しさみし  
い気持ちで再び衣類整理に戻る私。

すると、小野口さんはゴミ箱を持つ  
て戻ってきてくれたのです！それ  
からも、脚立を支えてくれたり、重ね  
た衣類をまとめやすいように持って  
くれたりと、最後まで協力してくれ  
ました。小野口さんのおかげで仕事  
がはかどり、早めに片付けは終了し  
ました。感謝を伝えると、小野口さん  
は満足気にデイルームに戻ってい  
きました。

困っている人に惜しげもなく手を  
貸してくれる優しい小野口さん。小  
野口さんのおかげで仕事が早く終わ  
っただけでなく、気持ちよく取り組  
むことができました。本当にありが  
とうございました。  
(千葉(知))

## 子供を通して

事務員 畠山優衣

私には、現在1歳8か月の息子がいます。生まれ  
る前は、やりたいことをさせ、のびのびと育てると  
いう理想があったのですが、現実はそうもいかず…。  
日が暮れた後に「外に行く！」と言だしたり、よう  
やく家の中に戻ると「ここに居て」と手を離してく  
れません。家事をするために手を離そうとすると泣  
き出してしまいます。そのようなときは何を言っ  
てもきかないので、しばらく様子を見るのですが、周  
囲からは泣いている子供に何もしていない親と見ら  
れているのではと不安になります。また、親の都合  
で子供に我慢をさせてしまっているのではないかと、  
愛情を注いでいないのではないかと悩むこともあり  
ます。教育面でも、周囲の意見にも耳を傾けて相手  
のことを思いやれる、誰からも愛される人になっ  
て欲しいと思っているのですが、私が息子に教えて  
いる『常識』は、本当に世間的に正しいことなのか…。  
まず自分自身を見直す必要がありそうです。

息子が産まれてもうすぐ2年。その中で、人に教  
える難しさで大変さ、両親への感謝など、たくさん  
のことを教えてもらっています。息子と共に、私も  
成長していきたいと思っています。



# 実習を終えて

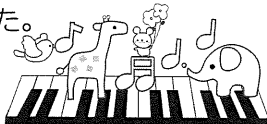


聖徳大学3年 平塚千夏

実習が終わった今、実習前にどんなことで不安がっていたのか思い出せないほど素敵な環境で学ばせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。コロナウィルスの影響で、施設の外に出での学習はなかったのですが、その分利用者さんとのコミュニケーションを深めることや、職員の皆さんと一緒に動く時間を多くとれ、より密に生活支援を知ることができたと思います。

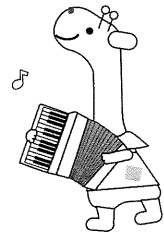
実際に生活している中で利用者さんと職員の皆さんの優しさに助けていただきながら最終日まで楽しく取り組むことができました。

短い間ではありましたが、今回の経験を今後に生かしていけるよう励んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。



聖徳大学3年 宮崎優菜

中台育心園での実習は全てのことが初めての連続で、とても緊張しました。初めはどのようにして利用者さんとのコミュニケーションを取ったらいいのかわからなかったのですが、毎日の他愛のない会話から利用者さんの気さくさや優しさ、笑顔に支えられ、私も毎日笑顔で実習に取り組むことができました。施設で働くのはとても大変そうですが、それと同じくらいやりがいのある仕事だと、実際に活動を通して感じました。11日間という短い間でしたが楽しくたくさんのお話を学ぶことができ、とても充実した日々でした。本当にありがとうございました。



## 跡 跡 跡

〔9・10月〕

〔寄付〕

▼倉嶋恵美子様

▼小野口里子様

▼石井吉昭様

▼高木登代一様

▼鹿嶋市社会福祉協議会様

〔来園者〕

▽鈴木歯科医院様(歯科検診)▽白十字総合病院様(健康診断)▽横田裕樹様(会計監査)▽永光パートナーズ 渡辺様(会計指導)▽日立総合防災様(消防設備点検)▽高坂防災様(スプリンクラー設備点検)▽鹿嶋市生活福祉課 飯塚様、宇佐美様(地域生活拠点支援の説明)▽マウント 阿部様(システム調整)▽茨城県障害福祉課 浅野様、山本様(新型コロナウイルス感染対策現地確認)▽小野口里子様(面会)▽鳥居信治様(面会)▽芳野富美子様、諏訪知子様(面会)▽NPO法人PACガーディアンズ 田川正浩様(面会)

〔日中一時支援〕

▼飯野泉さん

▼梶田浩史さん

〔施設実習〕

▽聖徳大学(9月2日、13日)

▼平塚千夏さん、宮崎優菜さん

〔9・10月誕生者〕

▼橋爪恵子さん

▼眞壁裕大さん

▼湖林健司さん

▼石田直也さん

▼池田友子さん

▼平間尚輝さん

▼大部なおみさん

▼藤沼光司さん

▼鳥居貴裕さん

## 編集後記

私の趣味の一つに献血があります。茨城県内に献血ルームが2か所しかないことは不満ではありますが。先日、潮来市に献血カーが来たので行ってきました。やはり、コロナ禍は献血状況にも影響を及ぼしているようで、血液が足りないということでした。そして数日後、献血センターより封書が届きました。「貴方の血液からE型肝炎抗体が検出されました。再検査では陰性であり、一定の確率で起こる『偽陽性』と思われるので、心配はいりません。しかし、念の為、今回の献血された血液は破棄させていただきます。」

E型肝炎・・・調べたら、ブタ、シカ、イノシシの生食による感染が主だそうで、しかもほとんど発症例のないレアな肝炎だそうです。生肉食べてないですよ(泣)。それよりも、血液が足りないって言っているところに、結局私の血は破棄されてしまったって、ご迷惑をおかけしただけだったと思うと、今、この編集後記を書きながら、本当に涙目です(泣)。(チヨダ)

